

## ファンドマネージャーの運用ノート※

### 深セン訪問記(EV 編)(2018年8月)

#### ～ファンドマネージャーが見たイノベーション都市「深セン」の今～

※当資料は、大和投資信託の運用チームの相場の見方をお伝えするレポートです。  
大和投資信託が設定・運用するファンドにおける投資判断と必ずしも一致するものではありません。

2018年8月16日

#### お伝えしたいポイント

- ・ EV(電気自動車)大国をめざして疾走する中国
- ・ 押し寄せるEV化の波
- ・ 企業紹介 ～最速EVやAI搭載EVを開発する中国新興ベンチャー「NIO」～

#### <EV 大国をめざして疾走する中国>

中国政府は、2015年に発表した産業中期戦略「中国製造2025」において、世界の製造業の発展をけん引する製造強国になるための戦略目標を打ち出し、新エネルギー車産業を国家産業競争力の核心的利益として育てていく方針を示しました。政府は、2020年までに新エネルギー車の年間販売台数を200万台にまで引き上げる目標を掲げており、これは2016年から2020年までの年間成長率40%程度に相当します。環境保護の強化と先端産業育成にかじを切っている中央政府の意図をくみ、大気汚染対策とEV(電気自動車)産業誘致の両立を狙った地方政府による支援も、EV市場の拡大の後押しとなっています。今回、深セン市内を歩いてみて、特に公共車のEV化はかなり浸透していると感じました。

#### <押し寄せるEV化の波>

深セン市内を歩いていると、青色のバス、タクシーを頻繁に目にします。話によるとこれらの青いバス、タクシーはすべてEVで、深センに本社を置く中国EVメーカー大手のBYD製でした。

深セン市交通運輸委員会は、市内の公共バスを全てEV化する目標を2017年12月下旬までに達成したことを明らかにしました。現在では、市内におけるEVタイプの公共バスの台数は1万6,000台を超え、1日当たりの平均走行距離は280万kmを超えています。また市内のEVタイプのタクシーは累計で1万2,500台を超え、1日当たりの平均走行距離は約430万kmに達しています。



※写真は、大和投資信託撮影。

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

またタクシーについて、市内のタクシー全体に占めるEVタクシーの割合は60%を超え、深セン市交通運輸委員会はこれを近いうちに100%にする目標を掲げています。

深セン市を含む中国広東省の省政府は2018年6月、「新エネルギー車産業のイノベーション発展の加速に関する意見」を発表しました。2020年までに省内の主要高速道路の全てのサービスエリアに充電設備を設置することや、新たに建築される住宅の駐車スペースに充電設備の設置もしくは設置環境の確保を求めることなどが含まれるなど、広東省がEV化社会に向けたインフラ（社会基盤）整備に積極的に取り組んでいることがうかがえ、さらなる広がりに注目です。



▲BYD 製のバスやタクシーが多く走っていました。また、バス後部の広告には QR コードが付くなど、デジタルエコミーが進んだ深センをここでも感じました。

※写真は 大和投資信託撮影。

## <企業紹介 ～最速EVやAI搭載EVを開発する中国新興ベンチャー「NIO」～>

「中国版テスラ」とも称される「NIO(ニオ)」は、2014年に上海で設立された中国の自動車関連ベンチャー企業です。EVの開発を手掛け、同社の代表的な製品であるスーパーカー「NIO EP9」は2017年5月にドイツのニュルブルクリンクの北コースにて最速タイムを記録するなど、その技術力に注目が集まっています。

同社は、テンセントなどから10億ドル(約1,100億円)余りを調達後、世界最大のEV市場である中国で次の成長段階に備えています。また、8月には米国市場でのIPO(新規株式公開)を申請し、中国の自動車メーカーとして初の米国上場をめざすなど、その動向には注目が集まっています。



▲最速タイムを記録したスーパーカー「NIO EP9」。



▲中国で開催された「北京モーターショー2018」において公開された NIO 社の新型 EV「NIO ES8」。バッテリーの充電については、所有者はバッテリー交換ステーションを利用する他に、「パワーモバイル」サービス車を利用して充電することができます。NIO は2020年までに1,100か所以上のバッテリー交換ステーションを設置し、1,200台の「パワーモバイル」サービス車を保有する計画があり、EVの浸透に期待が持てます。



▲運転席に備わる世界初の車載 AI システム「NOMI」。音声認識システムを介して、様々な情報をやり取りすることができます。

※写真は 大和投資信託撮影。

以上

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <ご参考> 当社の関連リサーチ

- ・深セン訪問記(デジタルエコミー編)(2018年8月)～ファンドマネージャーが見たイノベーション都市「深セン」の今～  
[http://www.daiwa-am.co.jp/market/html\\_ml/ML20180807\\_2.html](http://www.daiwa-am.co.jp/market/html_ml/ML20180807_2.html)

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management